



- 市場環境の変化を背景に構造的課題を抱える物流業界を対象とし、IoTを活用した生鮮流通の共同配送を行なう実証プロジェクトを構想し実行、物流効率化と経済効果を両立できるという検証結果を得た

### 社会的背景

- ・ 物流業界においては構造的課題の顕在化が進み、経済インフラとしての維持が困難な状況を迎えている
- ・ 特に、ECの爆発的普及などを背景に、小ロット多頻度の物流需要が急増するなか、ドライバーの総数は年々減少しており総量抑制と単価向上が業界のトレンドとして進む
- ・ 業界全体の効率化を行なうため、先端的な技術活用やビジネスモデルを応用した物流サービスの開発が先進国を中心に進められている

### 協創パートナー

- ・ 経済産業省 商務保安流通グループ 物流企画室
- ・ (株) 富士通 ビー・エス・シー
- ・ (株) 大治 はじめ 仲卸事業者、(株) BPトランスポート
- ・ (株) リライ
- ・ (株) KPMG FAS 他

### 着眼点/先進性・独自性

- ・ 「物流業界のUber」を狙いとし、特定産業において事業化を狙いとした**実証事業の企画と実行を経済産業省に持ち込み**
- ・ 効率化の対象として、特に情報化の遅れている生鮮流通に着目、**日本最大の流通拠点である大田市場**での実証体制を構築
- ・ **シェアリングビジネスの基盤開発を進めていた富士通グループ**の協力を得ることにより、短期間かつ合理的に実証サービスを立上げ

### 実施概要

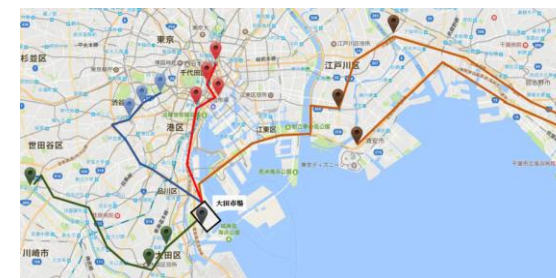
#### ■ 実施内容

- ・ 大田市場から首都圏の小売・飲食店への物流を対象に、マッチングシステムを用いた共同配送の実証実験を企画・実行し効果を検証

(マッチングシステム)



(テスト対象の配送ルート)



#### ■ 実施成果

- ✓ 経産省の委託事業では**初となる実物を扱った物流効率化テスト**を実施
- ✓ 共同配送により荷主の**配送コストを約70%削減**しながら、運び手である**物流業者にとって追加収入を得られる**という検証結果を得る

#### ■ 今後の展開

- ・ 実証テストの延長として大田市場内での本事業化
- ・ 生鮮流通プラットフォーム化を狙いとした全国での効率化検討